

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4490100288		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	大分市大字駕野1183番地1		
自己評価作成日	平成25年4月18日	評価結果市町村受理日	平成25年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jiryouyoCd=4490100288-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成25年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている利用者を、自分の祖父母、父母との気持ちで、嬉しいこと楽しいことを一緒に共有し毎日を本当の家族のように過ごしています。また利用者が毎日をいかに気持ちよく生活できるかを常に考えている心優しい職員がいっぱいです。

市郊外の静かな住宅地に位置し、近隣には公園や商業施設を配する鉄骨3階建て2・3階部分2ユニットの施設で、法人内には小規模多機能施設・有料老人ホームを有し、資源の相互活用が図られています。施設理念の周知を基盤に、家族像である施設づくりに全職員で取り組む中で、個々の職員のスキルアップ、チーム力の向上(プロ意識)、更には、施設力の向上に努める様子が伺えます。家族との相互交流を大切に、個々の利用者・家族の折々の思いの尊重と、個性に寄り添う支援に努めながら、日々の身心の状況の把握、並びに身体の機能訓練等の継続的な援助に取り組んでいます。利用者の豊かな日常の暮らしと、地域に根付いた体制づくりに向け前進的に励んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目につく場所に掲示しており、ことあるごとに意識付け確認し、日々の実践につなげています。	理念に基づく支援を目指し、利用者・家族・職員相互の繋がりを大切に、施設生活における家族像を念頭に掲げています。地域共存の生活とその人らしさの尊重の支援への営みに向け、個々の利用者の暮らしぶりを支えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園やストアーに出かけたり、お互いのイベントには参加し顔見知りになり声をかけていただけるようになりました。地域に開かれた施設になるよう心がけています。	施設行事(夏祭り・運動会)やイベント(寒田の子ども太鼓)等の地域へのお知らせ、地域行事(運動会・寒田藤まつり)の参加、日常的な支援では、買い物や散歩途中での地域住民との交流も行われています。	自治会を通じ地区の行事の把握に努めるなど、地域間交流への積極的な姿勢が伺えます。学校や幼稚園との交流(触れ合い)の機会づくりに向けた、働きかけも行われており、一層の期待が持たれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事には参加し、また施設でのイベントには回覧やポスターなどで多くの人へ来ていただくようにしています。地域のリーダーには認知症等でお困りの方がいれば、いつでも相談に応じることをお知らせし理解や協力をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来2か月毎の会議には地域のリーダーや家族にも参加していただき、意見や情報交換の場としています。いただいた意見や情報は施設の運営、サービス向上に反映させています。	会議の状況から、その時々に応じたテーマによる話し合いの中で、委員から質問・意見や提案・アドバイス等を受けながら、活発な協議進行に取り組んでいます。会議の活用に向けた実践への取り組み(支援)の姿勢が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者福祉課の担当者とは特に連絡を取ることも多く訪問、相談、助言をもらうなどの協力をいただいています。また市開催の研修、勉強会には積極的に参加しています。	市担当者への訪問や電話による相談など、連絡事項の発信く必要な援助や使える支援(福祉用具・おむつ券)が行われています。行政との相互の協力的な関係づくりに努める様子が伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを原則としており、安全面に配慮し、見守り、声かけを行っています。玄関の施錠は夜間のみ、職員配置の関係上防犯のためにもしています。	個々の職員の気づきと職員間のチームワークの重要性を認識しています。日常生活から伺える状態の変化や、一人ひとりの利用者の思いの尊重、安全面への対応と対策等について、共有の周知と実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員すべてが虐待は絶対してはいけない行為と理解しています。また、虐待につながるストレスや不満が溜まらないよう相談、助言ができるような環境づくりに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体の勉強会はないが、数名の職員は研修会参加をしており理解に努めている。現在、利用の入居者はいないが制度についてもっと学ぶ機会を増やし活用できるように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については施設長または管理者により十分な説明をし、納得、了承を得た上で署名、捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見にはその度に責任者が対応しており、家族には面会時や運営推進会議に参加や意見箱を設けるなどで意見、要望を、お聞きし、機敏な対応を心がけています。	施設行事・イベントや推進会議へのお誘い、面会時を通しての対話を支援向上の糧として捉えており、要望や意見の検討、支援への反映に取り組んでいます。遠方・疎遠になりがちな家族との関係の継続も、積極的に行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は毎月のユニット会議で発言の場を設け、時には個人面談も行い意見を聞くようにしています。また幹部会議により検討し、運営に反映させています。	職員会議は、個々の職員のアイディアや意見交換の場となり、協議・実践に繋がる体制が育まれています。管理者は、日常の職員の体調(様子)の変化への気配りの大切さも指摘しており、職員相互によるチームパワーの充実に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況に負担のないよう配慮し、個々に応じた就業時間や職場環境整備に努めている。また個人面談の場を設け、意見を聞くように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や勉強会の参加でスキルアップを図っています。ベテランが新人に指導する体制づくりで、よりよいケアができるよう努めています。また研修生を受け入れています、それにより職員も刺激となり、いい勉強となっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との情報交換で勉強になることも多く、施設のサービスの質の向上につなげています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には訪問面接にて、本人の状態、思いを聞き、安心した環境を提供できるような情報収集に努めます。また、できるだけ入居前に施設見学により雰囲気を知っていただくようにします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で、家族の思いや要望を聴き、サービスへ反映させる。また、いつでも意見や要望を出しやすい環境や関係づくりに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族を含め話し合った結果、必要なサービスであれば、施設外サービスでも説明、納得の上で対応します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所の理念である、自分の父母、祖父母と思い心をこめてお世話をするとともに、家族として、得意なことや出来ることは発揮できるような環境づくりに努めます。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝え、変化や気になることがあればその都度連絡するようにしています。また施設イベントの参加の声かけ等で、訪問の機会が増えるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親せきの訪問があればその機会を大切に、またの訪問をしていただけるように努めています。外出、外泊も環境を整えられるだけ希望に添うように努力しています。	利用者の馴染みの関係・場所の把握に努めており、一人ひとりの利用者とその家族の思いを大切に受け取りながら、繋がりを継続できる支援(訪問・電話)の実践に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は個々の趣味や考えを尊重し、孤立しないよう努めています。また全員が楽しめたり参加できるゲームや作業の提供を心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には情報提供をするとともに、退所後にも必要であれば、いつでも連絡していただければ応じることを伝えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望は日々の生活の中で、職員皆に言いやすい環境を提供し、意思疎通の困難な方に対しては以前の暮らしぶりを参考に、日々の暮らしの中の観察で思いや意向を汲みとるようにしています。	家庭的な雰囲気を大切に、利用者同士の良好な関係づくりに努めています。アセスメントの活用、日常生活における気づきを大切に、個々の利用者の思いの把握に取り組みながら、全職員間での情報の共有、援助に励んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を元に本人や家族の話を参考に以前の生活歴の把握に努めており、職員間で共有しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らし方を参考に毎日のバイタルチェックと心身の状態を把握し、個々にあった運動や作業で残存機能の維持に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員参加で入居者個々のモニタリングをし、本人、家族の意向や職員の意見、気づきを反映した介護計画に努めている。	一人ひとりの利用者の「状況(目標達成度)」は、毎月の職員会議で全職員間での情報として共有しており、職員の意向の把握に努めながら、介護計画の策定に繋げています。家族の意向も把握されています。	利用者の記録(職員の気づき・工夫等)は、パソコン管理にて全職員の共有が図られています。日々の生活の支援である計画策定においても、職員間の協議に努められることに、更なる期待が持たれます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別にしており、別に全員のバイタル、排泄、食事状態が一目でわかるようにしています。勤務交代時には申し送りとともに気づきや工夫等をノートに記し、職員全員が周知するようにしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生きる状況に、柔軟な対応を心がけています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域周辺の公園やストアなど出かけたり、祭りや運動会等、積極的に参加するようにしています。地域の人々と顔見知りになることで、地域の一員として、安心安全に生活できるよう努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時には本人家族と十分な話し合いでかかりつけ医を決め、入居時には基本受診していただきます。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で緊急時にも対応します。	利用者、家族の希望するかかりつけ医に家族同行を基本としていますが、体調不良や緊急時は職員が対応し受診をしています。月2回の協力医の往診と共に、職員による日々のバイタルチェックや観察により異常の早期発見に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師により個々の心身の状態の把握はできています。また職員の報告や気づきには適切な指導、指示がされており、主治医との連携も密にとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の関係者との連携を早期より築き、面会時には情報交換や相談に努め、退院時の受け入れがスムーズに運ぶよう環境整備を整えます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化指針の説明し同意の上契約をしています。状況に応じてその都度、家族への確認はします。終末期が近づいた場合は、主治医、家族、看護師、職員で今後の方向性を話し合う会議を持ち、全職員で心を込めて支援します。	関係機関（医療機関や看護師等）と連携を図り、看取りを行った事例があります。利用者、家族の希望に添い、最後まで安心して過ごせる環境を作ることを、年間目標に掲げ、全職員で終末期の研修、勉強会を開催しサービスの質の向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルは常に目にする場所へ貼付しており、定期的な看護師による指導もされている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、毎日、防火設備や施設全体をチェック表にて点検しています。また、簡易担架の作り方の講習で職員が緊急時に対応できるよう訓練しています。入居者、数日分の食糧飲料水の備蓄はされています。	年2回の火災避難訓練を実施し、消防団員（職員）と共に、施設設備点検や通報避難等の訓練を行っています。また、運営推進会議を通し、地域の理解と協力を得られる体制作りも出来ています。	職員の連絡体制を含めた、夜間想定訓練の実施が期待されます。年間目標にも「安全に避難、保護」を掲げており、災害対策は毎年の重点目標とされることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生き方や環境に配慮し、常に人生の先輩として敬い、自分の祖父母、父母と思い、心をこめて接するよう職員指導しています。	人生の先輩として学ぶという姿勢で、一人ひとりの人格を尊重した対応に心掛けています。職員配置にも余裕があり、利用者に行き届いたサービスが提供されています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望をいつでも言える環境と無理強いしないで自己決定ができるよう心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて、何事にも柔軟な対応を心がけています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時には好きな衣類を選んでいただき、散髪、パーマ等希望の時は手配し、また毎日の整容には職員が声かけ等で心配りしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時には準備を一緒にしたり会話しながら食事を共にしています。また時々、外食を楽しむ施設とは違う雰囲気味わっています。	調理は外部委託し、御飯と汁物は職員が作っています。食前の口腔体操と共に、献立表を見て、説明を行い食事に感心を持ってもらう工夫を行っています。関係者(職員、調理人、栄養士)は利用者の嗜好や満足度、固さ、形状等を調査し、メニューに反映させています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせる形態、量を提供し、医師の指示のある方には応じた食事の提供をしています。また夜間には水分補給を心がけています。2か月毎の厨房会議では入居者の声も反映させ、希望を取り入れるようしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には個々に合った口腔ケアの支援に努めています。また、口腔内に不具合が見つかった場合は家族とも相談の上、専門医受診を勧めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインを職員間で共有し、なるべく失敗しないよう自立に向け支援しています。夜間も声かけや誘導で、トイレでの排泄を心がけています。	一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄を基本としています。羞恥心やプライドに配慮すると共に、排泄に重要な下肢筋力の維持にも取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立や食事提供、看護師の運動指導、腹部マッサージ、また職員の習慣的なトイレ誘導などでスムーズな排泄ができるよう心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、入浴は週3回となっていますが、個々の体調に合わせて柔軟な対応をしています。	1階の小規模多機能ホーム、2・3階グループホームで毎日どこかで入浴介助を行っているため、希望の曜日に入浴が可能です。体調に合わせてシャワー浴や清拭を取り入れ清潔の保持に努めると共に、好みの入浴剤を入れくつろぎの時間を大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせ、散歩や運動の支援をして、夜間安眠できるように心がけています。また、適度な休息もれるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬間違いのないよう二重三重の確認により支援しています。入居者全員の薬剤の説明書は一冊にファイルされ職員がいつでも確認、把握が出来るようにしており、変更がある場合は連絡ノート等で全員が周知するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ることを日々の生活の中で、協力しながら役割分担し過ごしています。趣味の音楽を聴いたり、囲碁をしたりと好きなことで気分転換も図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や個々の状態に配慮しながら、近くの公園へ出かけ近隣の方とお話したり、外での花の手入れ等の実施をしています。また、買い物や外食等も家族との相談のもと希望に添えるよう努めています。	ホールの前にプランターを置き、四季折々の花が植えられ、利用者が花の手入れや観賞するために、一日一回は外出できる機会を作っています。また、季節毎のドライブでは家族、ボランティアの協力を得て実施され、利用者の楽しみ、気分転換になっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来、お金を所持している方には、希望に応じ買い物支援はしています。出来ない方には家族と相談しながら希望に添うよう支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話での会話ができるようにしたり、手紙の代読や代筆の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は清潔を保ち、季節の草花や展示物で居心地よく過ごせるように工夫しています。	各テーブルには家族が作成した花瓶に四季の花を生け、季節感を採り入れると共に、貼り絵、行事の写真を飾り、利用者同士の話題の一助になっています。ホールでの一人ひとりの居場所を大切にする、職員の気配りのある声掛けに、居心地のよい生活空間が生まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル席は入居者の相性等を考慮し座る場所を決めていますが、行きたい場所には自由に行けるようにも配慮しています。窓際にはソファを置きゆったりできるようにもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染の物を持って来られ、過ごしやすような空間にいただいています。	居室には入居時に家族と一緒に、持ち込まれた馴染みの写真や誕生カード、仏壇等があり、シンプルながらも落ち着いた居室です。ベッド上の布団は、たたんで片付けることにより、昼夜のメリハリをつけ、掃除の行き届いた清潔感のある居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物各所には手すりを設置し、歩行や移動、移乗運動等安全にできるように配慮しています。居室のベットは起き上がりや立ち上がり、座位等が個々に合わせ、自立での動作が可能になるよう3モーターにしています。		